

シリーズ② 金融経済教育を語る

西村 隆男氏
横浜国立大学名誉教授／経済学博士

篠田 健一郎氏
東京都立西高等学校 指導教諭(公民科)
全国公民科・社会科教育研究会 事務局長

内田 文子氏
東京都立三鷹中等教育学校 指導教諭(家庭科)
東京都家庭科教育研究会 事務局

- 高校の公民科・家庭科向け教材『明るい未来へTRY!～リスクと備え～』のご紹介
- 教材を活用した授業プランのご紹介① 公民科[公共、政治・経済]
- 教材を活用した授業プランのご紹介② 家庭科[家庭基礎、家庭総合]
- 教育現場の声を聞く リスク教育と損害保険教育の今



INFORMATION

日本損害保険協会では、教員の皆さまや一般の方々に向けて、損害保険教育に関する情報を発信する

そんぽ学習ナビ を開設しています。

見やすく、分かりやすく、
ほしい情報が手軽に
入手できます



<https://www.sonpo.or.jp/education/>



損害保険教育情報誌「そんぽジャーナル」は、
そんぽ学習ナビ から前号「創刊号」、
最新号「第2号」をご覧ください。



<https://www.sonpo.or.jp/education/others/journal/>

一般社団法人 日本損害保険協会 会員会社一覧

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	共栄火災海上保険株式会社	トーア再保険株式会社
アイペット損害保険株式会社	さくら損害保険株式会社	日新火災海上保険株式会社
アクサ損害保険株式会社	ジェイアイ傷害火災保険株式会社	日本地震再保険株式会社
アニコム損害保険株式会社	セコム損害保険株式会社	ペット&ファミリー損害保険株式会社
イーデザイン損害保険株式会社	セゾン自動車火災保険株式会社	三井住友海上火災保険株式会社
AIG損害保険株式会社	全管協れいわ損害保険株式会社	三井ダイレクト損害保険株式会社
エイチ・エス損害保険株式会社	ソニー損害保険株式会社	明治安田損害保険株式会社
SBI損害保険株式会社	損害保険ジャパン株式会社	楽天損害保険株式会社
au損害保険株式会社	大同火災海上保険株式会社	レスキュー損害保険株式会社
キャピタル損害保険株式会社	東京海上日動火災保険株式会社	

2021年9月1日現在(会員会社29社50音順)

シリーズ②
 巻頭インタビュー
金融経済教育を語る

シリーズの2回目。幅広い視点で金融経済教育や損害保険教育のあり方を探るため、研究者、現場の教員の方に、それぞれの立場からお話をうかがいました。



内田 文子氏

東京都立三鷹中等教育学校 家庭科指導教諭(家庭科)
 東京都家庭科教育研究会 事務局

●うちだ・ふみこ
 東京都立三鷹中等教育学校 家庭科指導教諭。東京都家庭科研究会事務局。東京都立町田高等学校、同野津田高等学校等を経て現職。元全国高等学校家庭クラブ連盟 常任委員。元全国高等学校家庭クラブ連盟 成人副会長。



篠田 健一郎氏

東京都立西高等学校 指導教諭(公民科)
 全国公民科・社会科教育研究会 事務局長

●しのだ・けんいちろう
 東京都立西高等学校公民科指導教諭。東京都立両国高等学校、浦田高等学校、富士森高等学校を経て現職。全国公民科・社会科教育研究会事務局。金融広報中央委員会「学校における金融教育の推進に関する懇談会」高等学校分科会委員、「金融教育プログラム」執筆者、「先生のための金融教育セミナー」講師多数。



西村 隆男氏

横浜国立大学 名誉教授 / 経済学博士

●にしむら・たかお
 横浜国立大学名誉教授。博士(経済学)。専門は消費者教育学、生活経済学。金融経済教育や多重債務問題にも詳しく、金融広報中央委員会(日銀内)の委員で同委員会の発行する学習教材の執筆者、金融経済教育推進会議委員、国民生活センター客員講師なども務める。

損害保険教育情報誌 **そんぼジャーナル** 第2号 February / 2022《目次》

<p>16 Web紹介 ■そんぼ学習ナビ ■そんぼジャーナル</p>	<p>14 リスク教育と損害保険教育の今 教育現場の声を聞く 川邊 綾子先生</p>	<p>13 教材を活用した授業プランの紹介 家庭科「家庭基礎・家庭総合」 海城中学高等学校 家庭科講師 浅川 貴広先生</p>	<p>12 教材を活用した授業プランの紹介 公民科「公共・政治・経済」 東京都立浦田高等学校 主幹教諭(公民科) 内田 文子先生</p>	<p>8 『明るい未来へTRY!』の紹介 リスクと備え 高橋の公民科・家庭科向け教材 内田 文子氏</p>	<p>7 金融経済教育は心の豊かさ 自立した生活を多角的に考える手段 東京都立三鷹中等教育学校 指導教諭(家庭科) 東京都家庭科教育研究会 事務局 篠田 健一郎氏</p>	<p>6 金融経済教育はキャリア教育 よき社会人となるために必須の学び 東京都立西高等学校 指導教諭(公民科) 全国公民科・社会科教育研究会 事務局長 篠田 健一郎氏</p>	<p>4 成年年齢の引下げによる 金融経済教育の重要性の高まりから 教員が積極的に学ぶことが必要 横浜国立大学 名誉教授 / 経済学博士 西村 隆男氏</p>	<p>3 シリーズ② 金融経済教育を語る</p>	<p>2 巻頭インタビュー 一般社団法人 日本損害保険協会 業務企画部長 佐々木 修</p>
---	--	--	---	--	---	---	---	---	---

ごあいさつ

「そんぼジャーナル」は、高校の公民科・家庭科の教員の皆さまに損害保険教育を行う上で必要な情報を提供するため、2021年2月に創刊し、今回は第2号となります。

日本損害保険協会は、安心かつ安全な社会の形成に寄与することを目的に、「損害保険の普及啓発及び理解促進に資する事業」を行っており、高等学校を中心としてリスクや損害保険に関する教材の提供や講師派遣などを実施しています。

社会環境が変化するスピードは増えています。新型コロナウイルス感染症の影響によって生活環境や生活様式が変化しているほか、自然災害の多発化・激甚化は次世代を担う子どもたちに大きな不安を与えています。こうした状況下では、一人ひとりがリスクを適正に認識し、それに基づき適切な対応策を実施することが重要です。

平成30年告示の学習指導要領解説(公民科・家庭科)では、貯蓄や民間保険に触れた上で、自助、共助及び公助の適切な組み合わせについて多面的・多角的に考察すること、リスク管理を踏まえた家計管理の基本や金融商品の特徴を学習することが明記されています。

また、2022年4月からの成年年齢の引下げにより、高校在学中から親権者の同意を得ずに契約することが可能になる反面、未成年者取消権を行使できなくなるため、経済活動に伴うリスクに自ら備える力を身に付ける必要があります。

身の回りのリスクや保険の仕組み・必要性を理解し、自ら適切にリスクに備えられるようにするための損害保険教育の重要性は高まっています。本誌が、より多くの学校でリスク教育・損害保険教育を実施するきっかけになれば幸いです。

2022年2月

一般社団法人 日本損害保険協会 業務企画部長 佐々木 修

成年年齢の引下げによる 金融経済教育の重要性の高まりから 教員が積極的に学ぶことが必要

西村隆男氏

横浜国立大学名誉教授／経済学博士



〈前号の要旨〉

1990年代からの本格的な金融自由化によって、金融環境は大きく変化。世界各国でも、国家戦略として子どもへの金融経済教育に力を入れる動きが見られるようになった。なかでもリスクマネジメントにおいて重要な役割を果たしているのが損害保険教育だ。日本では子どもの6人に1人は貧困家庭と指摘される今、損害保険協会と政府関係機関が協力し、きちんとした金融経済教育の受け皿をつくっていただきたいと思います。

全ての人が お金のことで苦しめない 金融経済教育が必要

私の根底にある金融リテラシー教育に対する考え方は、「誰一人取り残さず、全国民が金融リテラシーを身に付けること」です。SDGs的な発想であり、

INFIE(International Network on Financial Education＝金融教育に関する国際ネットワーク)でもテーマになっています。金融包摂(フィナンシャル・インクルージョン)誰もが取り残されることなく、金融サービスへのアクセスができ、恩恵を受けられるようにする取組み)を実現

日から、高校3年生のうちに成人になるわけで、成年年齢になると、例えば、未成年取消権が使えなくなります。

未成年者がオートバイを買ったり、何かおかしな商品に手を出してしまったりした場合、消費生活センターなどに相談をして、未成年者だと分かれば、法定代理人の同意がなかったことで、契約を取り消し、解約ができました。ところが、2022年以降は18歳になっていたら、解約できないわけです。

保険契約で言えば、この保険で補填されるのは何なのか、補填されないものは何なのかという事です。例えば、自動車保険契約の免責条項について、契約した日に事故を起こした場合はどうなるのか、何時から効力が発生するのかといったことをきちんと理解する必要があります。「若いうちは保険料が高いのはなぜか」「保険料はどうやって決まるのか」といったことも考えてみる必要がある。これが、18

歳成人の責任になってくるわけです。

契約内容を理解する力を 高校で身につけさせる

教員としては、まずは自分の保険証券の内容を確認した上で、保険を語ることも必要だと思います。高校生はオートバイに乗ることもあるでしょうし、クレジットカード契約もある。一人暮らしをすることになれば賃貸契約など、さまざまな契約を結ぶ機会が増えてきます。契約の中身をきちんと理解した上で契約するためには、確認すべき条項が何かを学び取るだけの力を高校生のうち身に付けることが重要だと思います。

金融経済教育を行う時間が少ないという指摘は学校現場であるのですが、18歳で成人になるので、避けて通るわけにはいきません。解約できなくなるので、サービスを提供する側も丁寧な説明が必要になります。契約する側も、十分に理解した上

しなければならぬということ

3か月間の生活資金がない、毎日の生活に追われ、先のことを考える余裕がないという人は、どうやって3か月分の生活費を保全しておくことができるのか。貯金がないという家庭も出てくると、生活は困難を極めることになってしまふ。これは日本だけではなく世界的な問題で、金融包摂という考え方に基づいて、すべての人があまねくお金のことで苦しめられない、困ったりすることがないように教育する

での合意形成が重要だと思っています。

体系的な金融経済教育が重要 保険の基本が分かる教材を

将来のことを考えてより安全で健康に生活できるように老後の設計まで高校生に考えさせるのはかなり難しいと思いますが、事故などはすぐに直面する可能性もあります。高等学校教育のなかで、損害保険や社会保険としての医療保険の状況などは、マネーマネジメントの一環として、保険について学びとっていく必要があると思います。ウェブ教材などを活用して、教員の方々が学んでいただけるような場面を作っていく必要があり、教員の方々も、自ら積極的に活用していく必要があると思います。

一方で、カリキュラム・マネジメントが重要な要素になってきていますが、二人の先生が一緒に来て、それぞれの視点で教え

ことを金融経済教育の中に位置づけることが必要だと思います。

18歳で成人になると 保険契約も自己責任に

金融全般に関する知識や損害保険の知識について、高校生ほどの程度の理解が必要かという「生活にどんなリスクがあるか」「そのリスクは自分でカバーできるのか、できないのか」を知ることよと思っています。

一方、2018年の民法改正で成年年齢の引下げが決まったことにより、2022年4月1

るという方法もあります。また、中学で理解したものは、高校では教えないといったように、小学校、中学校、高等学校それぞれのカリキュラムをお互いに提供し、連携した体系的な金融経済教育を行うことが必要ではないかと思っています。

保険の存在意義はリスクですから、生活上のリスクを理解した上で「公」と「民」で分けているという考え方が必要だと思います。自動車保険を例にとると、「公」の意味合いが強い自賠責保険だけでなく、「民」の自動車保険にも入るのは、リスクの影響度が大きいからということを理解できるような教材がほしいですね。

ベーシックなことを、きちんと教えるべきだと思っており、日本損害保険協会には、そういう教材を作ってほしいと思います。

※前号の西村先生のインタビュー内容は「こちら」
<https://www.sonpo.or.jp/education/others/journal/>



金融経済教育はキャリア教育 よき社会人となるために必須の学び

篠田健一郎氏

東京都立西高等学校 指導教諭(公民科)
全国公民科・社会科教育研究会 事務局長



新しい学習指導要領にも記されているとおり、高等学校の「公共」の授業で金融経済や民間保険を教えることはとても大事なことだと私は考えています。

というのも金融経済教育は、世の中でお金がどのように動いているのかを押さえるのが基本で、それは社会の仕組みを学ぶことにつながるからです。生徒たちはそこから「将来どうするか」を考えるようになる。金融経済教育はそうした視点を養うこともできるもので、広い意味でのキャリア教育だと私は考えています。

なかでも損害保険教育は、生徒にとって、お金と自分の生活、

社会との接点を考える意味で、

重要だと思えます。社会の仕組みとして保険制度を理解すると、人生や企業、社会にとって保険が重要であることが見えてきます。では、どの単元で損害保険を取り上げるか。私は社会保障制度の説明の中に入れるのがオーソドックスな進め方だと思います。社会保障は公的な部分であり、それを補完するものとして民間保険の話をする。あるいは消費者教育や環境問題・自然災害がテーマの部分で損害保険を取り上げたり、安全・安心といった抽象的なテーマを、地震など具体的な事象から考えてみるのもいいでしょう。

一方で、損害保険にかけられる時間は、限られています。そのため、選択と集中で時間を捻出することが有効です。教科書を見れば分かるところは、プリントで課題としてやるようにする。「これとこれは損保協会の教材を使う」など、簡単なところはスピードアップして、じっくり

やるところに時間をかけるようにするわけです。また、損害保険は消費者教育をはじめ、さまざまな単元とリンクしているもので、いくつもの場面で取り上げること可能です。さらに、防災教育の一環としてホームルー

ムで損害保険を取り上げるのも、地に足の付いた学びになると思います。

また、学校は授業だけではありません。本来「学び」は自由なので、業界団体と一緒に既存の教育の枠を飛び越えて、「損害保険について学びましょう」といった講座を開くのも面白いと思います。

最初から「できない」と諦めるのではなく、いろいろな手の借りながら、授業をつくっていくことも大切だと思います。その創造性は、必ず生徒に伝わります。

金融経済教育は心の豊かさ 自立した生活を多角的に考える手段

内田文子氏

東京都立三鷹中等教育学校 指導教諭(家庭科)
東京都家庭科教育研究会 事務局



金融経済教育では、「自立した生活者とは何か、豊かな暮らしとは何だろう」というテーマで商品がどこから来て、どこに行くのかを考える授業をしています。私たちは商品を購入する際、通常より安い物を選びがちです。

しかし、その商品が発展途上国の児童労働や、自然破壊に関与しているとしたら。無意識に地球規模でのリスクに加担しているかもしれません。

金融経済教育は、消費者被害を防ぐだけではなく、心の豊かさを保ちながら自立した暮らしを送る生活者になることについて、多方面から考える大切な手段となります。新しい教科書に

は「活用」という言葉があります。

生活を営む上でリスクは付きものですが、お金・物・人などの多様な生活資源を「活用」して、リスクを回避することが自立につながるのだと思いますし、こうした知識を学校で教えることは大切です。

また今年から社会的責任を負う成年年齢が18歳に引き下げられます。いままでは高校を卒業し、人間関係も広がってから多様な経験をして大人になりました。ところが、まだ親の庇護のもと部活や受験勉強、バイトをしているのに、急に大人として扱われるのです。もし加害者になってしまったら、被害にあった

人への社会的な責任を取ることにも必要になります。こうしたことは改めてリスクへの対処を考えるきっかけになると思います。

私は毎年授業で「身の回りのリスクとその備えについて学ぼう」という小冊子を使っています。選択問題もあり生徒と答え合わせをしながら、「えー、ビックリ！」といった感じで楽しく学んでいます。高校生にとって、

自転車は加害者にも被害者にもなりうるのです。自転車の項が身近なようです。自分が事故を起こしたら、多額の賠償金が発生する場合があります。知り、「自転車に乗るのが怖くなった」と

いう感想を述べる生徒もいます。やはり責任の重さを感じるのだと思います。

私は冊子を使っていますが、生徒たちにとっては、視覚に訴える動画と、付随してワークがある教材が理解しやすいようです。教員もそれを見ながら金融教育の知識を補い、広げることができそうです。

責任を取れる立場で生きていくためのひとつの手段として損害保険をとらえ、高校生ではその基本を押さえて、大人になった時に、自分で必要性を判断して選択できる力が身に付けばいいのでは、と思っています。

『明るい未来へTRY!』の紹介

冊子

動画

パワーポイント

公民科、家庭科の学習指導要領解説に沿って活用可能な教材です

本教材は、2022年度から実施される「学習指導要領解説」に沿って活用することが可能です。例えば公共では「社会保障の役割」、家庭基礎、家庭総合では「消費生活（経済生活とライフプラン）」の単元に対応しています。

2022年度からの成年年齢の引下げもあり、学生のうちから金融や経済について学ぶことは非常に重要になります！



生徒用教材



[A4判] / 40ページ

損害保険の概要を学ぶうえでの基本となる「保険のキホン」をはじめ、生徒の「やってみよう」に潜むリスクとその「資料編」でさらに理解を深めることができます。また、損害保険に関する用語やQ&Aのページもあります。

教材は3種類の媒体が用意されています

教材は「冊子」「動画」「パワーポイント」の3種類が用意されており、授業展開に合わせて教材を選択または組み合わせる使用ができます。また、普段の授業で利用するほかに、生徒の自主学習や休職中の課題などにも活用できます。



難しいというイメージが強い損害保険ですが、本教材は損害保険に関心を持ってもらいながら、短時間で学習できるようにわかりやすく作成されています。

冊子

冊子は生徒が使用する「生徒用教材」と、それを使用した授業を行う場合に参考になる「教員用手引書」の2冊セットです。

友だちとドライブに行きたい!

みんなのドライブの楽しみ方

ドライブは楽しいけれど、交通事故のリスクがいつもついて回ることを見逃さないで!

楽しいドライブゲーム! 見逃せないリスクとは?

- 1 人を送って夕方を送った。
- 2 ガソリンが足りなくて途中で止まった。
- 3 パンクが起きて車を止めた。
- 4 タイヤがパンクして走行不能になった。
- 5 急いで車を止めた。
- 6 急いで車を止めた。
- 7 急いで車を止めた。
- 8 急いで車を止めた。

万一の場合どんな備えがあるか考えてみよう

「Work編」のページ

生徒の「やってみよう」に潜むリスクとその備えについて、クイズ形式で学習できるワークページです。各Workには考える上でのポイントが記載されており、参考となる「資料編」の該当箇所も示されています。

Work 1: 他人賠償責任保険、対物賠償責任保険、搭乗者傷害保険、車両保険

Work 2: ①クガ、②死亡

Work 3: ①相手のクガ、②自分のクガ、③相手のくるまの損害、④自分のくるまの損害

自賠責保険、自動車保険

自賠責保険と自動車保険の概要

自賠責保険は、交通事故による被害を補償する保険です。必ず加入しなければならない保険です。

自動車保険は、自賠責保険の範囲を超えて、車両や対物への損害も補償する保険です。

保険料が支払われる主なケースと支払されない主なケース

ドライバーは自分で保険に入るなくても大丈夫?

ライブラリー

「資料編」のページ

各Workを解くヒントとなる情報のほかに、リスクの起こりやすさや起こった場合に被る損害の大きさを伝えるデータ、さらにリスクの備えとなる損害保険の概要などを載せています。

授業実践事例

福川エトール女子高等学校

福川エトール女子高等学校の授業実践事例ページ。生徒用教材と教員用手引書の活用方法が紹介されています。

基本的な授業展開例

基本的な授業展開例ページ。授業の流れや教材の活用方法が詳しく説明されています。

生徒用教材を使って授業を進める場合の授業展開例や、授業での生徒への問いかけアイデア、実際の授業事例などで構成されています。

教材を使って、どのように授業を進めたら良いかをまとめた「基本的な授業展開例」ページ。



[A4判] / 20ページ

教員向け 教員用手引書

実際に教材を使って授業を行った「授業実践事例」ページ。

動画

動画を見ながら学習できるのでわかりやすいです。動画は「保険のキホン編」(2種類)と「生徒の“やってみたいこと”編」(6種類)の計8種類があります。また、教員用に授業展開例の動画(3種類)も用意しています。

保険のキホン編

保険の基本的な内容を学ぶことができません。損害保険の基礎知識を身につける導入として最適です。

動画のみでコンパクトに学習することもできます。「保険のキホン編」で基本を学んでから、テーマごとに分かれた「生徒の“やってみたいこと”編」でリスクと損害保険について学習するとスムーズです。

生徒の“やってみたいこと”編

身の回りのリスクについて、具体的な事例を交えつつ「リスクマネジメント」の基礎となる考え方を学ぶことができます。「やってみたいこと」を入口として、そこに潜むリスクと備えの学習をテーマごとに進められます。

● 社会保険と民間保険



「社会保険」と「民間保険」、さらに民間保険には「生命保険」と「損害保険」があることなどを学習できます。

● 保険の役割



経済的な備えとしての保険の役割(貯蓄は三角、保険は四角)について学習できます。

● サイクリング



自転車を運転中のケガや物損事故、加害者となる人身事故などのリスクとその備えについて学習できます。

● ドライブ



くるまの盗難や故障、運転時の物損事故や人身事故などのリスクとその備えについて学習できます。

● ペットを飼う



ペットの病気やケガなどのリスクとその備えについて学習できます。

● ひとり暮らし



ひとり暮らしにおけるすまいや家財の被災、空き巣被害などのリスクとその備えについて学習できます。

● 高校生活を楽しむ



学校内や日常生活での病気やケガなどのリスクとその備えについて学習できます。

● 海外旅行



海外旅行中の事故、病気やケガ、荷物の盗難などのリスクとその備えについて学習できます。

「わんぼ先生」と2人の生徒との対話を通して学ぶことができます。

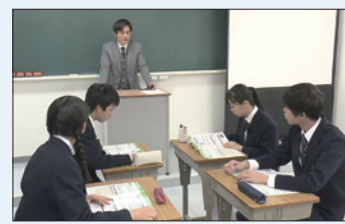


教員向け 授業展開例動画

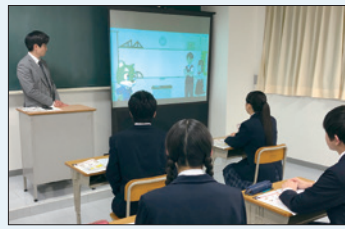
教材を用いて授業を行う際の活用方法を模擬授業形式の動画にしています。公民科(50分版)と家庭科(50分・30分版)の3種類の動画があります。



公民科(50分版)

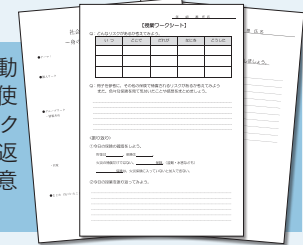


家庭科(50分版)



家庭科(30分版)

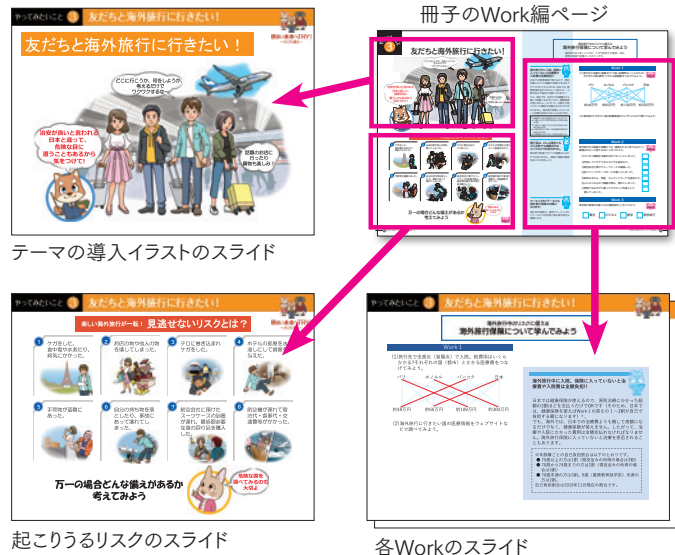
● 30分版
教材をコンパクトに活用して授業ができます。



授業展開例動画に沿って使用できるワークシートや振り返りシートも用意しています。

パワーポイント

冊子の「生徒用教材」をパワーポイント化したもので、全体授業などでスクリーンに映して授業を進めるときなどに便利です。各テーマごとに分かれた9つのファイルと、すべてをまとめた1ファイルの全10ファイルがあります。



パワーポイントは、授業において生徒への問いかけやワークの答え合わせをしやすいようにまとめられています。例えば、冊子のWork編のページの場合は「テーマの導入部分」「起こりうるリスク」「クイズ形式の各Work」がそれぞれのスライドに分けられています。

※情報を編集・変更する場合は、ご自身の責任で行ってください。

各教材のダウンロードはこちらから!

ここで紹介した各教材は日本損害保険協会ホームページ内「損害保険教育支援サイト そんぼ学習ナビ」-「高校生向け」に掲載されています。

<https://www.sonpo.or.jp/education/high/>

ここで紹介した各教材を使用して、「公共、政治・経済」「家庭基礎、家庭総合」で損害保険の授業を行う場合の授業プランをP12~13で紹介しています。ぜひ参考にしてください。

目的

- 人生すごろくを通じ、人生にはさまざまなリスクがあることを知る。
- 貯蓄や社会保険だけでは対応できないリスクに備え、民間保険があることを知る。
- リスクには民間保険を利用した備えが必要であることを知る。

プランのポイント

起こりうるリスクを自ら考え「人生すごろく」に加えさせることで、人生にはどのようなリスクがあり、どのように備えることが大切かを生徒が主体的に考えるようなプランにしました。

学習の展開 ※学習の前提として、家計の管理(給与明細含む)、社会保険に関する説明が終わっていることとする。

時間配当(各)[計]	学習内容と指導上のポイント		使用教材等
	学習内容	ポイント	
導入(8分) [8分] 各配分 ①4分 ②4分	<p>①先に学んだ家計の管理、社会保険について復習……具体例：健康保険とは？</p> <p>発問 「病気で受診したとき、医療費を何割負担する？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自己負担が少なくてすむことを確認する。 ● 人生のライフプランにおけるリスクとは、経済的な損失を被ることだと説明する。 ● 貯蓄の重要性を確認し、同時に貯蓄だけで足りるのか問いかける。 <p>②パワーポイントの図「貯蓄は三角、保険は四角」を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保険の意味を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 社会保険は原則強制加入、保険料だけでなく税金も投入されていることを確認させる。 ▶ 貯蓄だけでは不十分だと気づかせる。 ▶ 貯蓄と保険の違いを理解させる。 	<p>パワーポイント 「貯蓄は三角、保険は四角」 または 動画 「保険の役割」を視聴(4:39まで)</p>
展開(38分) [46分] 各配分 ①5分 ②6分 ③6分 ④16分 ⑤5分	<p>①「自分のライフプランを『人生すごろく』にしてみましょう」と提案(個人ワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 何をしたいかフローチャート状に描かせ、その中に、起こりうるリスクを3つ入れるよう指示する。 <p>②班に分かれて、どのようなリスクがあるかあげていくよう指示(グループワーク)</p> <p>③テキスト「明るい未来へTRY」を配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ● どのようなリスクが保険で保障(補償)されるか、自分たちのあげたリスクはどうか、冊子の資料編で確認し理解を深める。 <p>④「友だちと海外旅行に行きたい！」(ケーススタディ) ※テーマはあくまで例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● どのようなリスクがあるかあげさせる。 ● 「みんなが考えたリスクと『見逃せないリスク』を比べてみましょう」と声がけをする。 ● 「Workをやって、保険がどのようなものか確認してみましょう」と声がけをする。 ● テキストのWorkと答え合わせをする。 <p>⑤社会保険と民間保険の違いを再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 貯蓄と社会保険だけで対応できないリスクに、民間保険で備えることもできると説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「どのようなリスクがあるか考えさせる。 ▶ スタートは「高校卒業」とし、このような感じで描くという見本を示すと取り掛かりやすい。 ▶ グループで情報を共有する。 ▶ 教師がテーマごとに板書する。 ▶ 資料編の内容の探し方をアドバイスする。 ▶ 予想していなかったリスクに気づかせる。 ▶ 保険に入っていると助けられる場合があることに気づかせる。 ▶ 民間保険の必要性に気づかせる。 ▶ 気候災害の増加をヒントにあげてもよい。 	<p>※各自コンピュータやタブレット端末のアプリを使用させる。 ※用紙を配布し、ライフイベントやリスクを○で囲み矢印でつないでもよい。</p> <p>冊子 (P23～) 「保険金が支払われるケースと支払われないケース」</p> <p>パワーポイント 「友だちと海外旅行に行きたい！」</p> <p>冊子 (P10～11)</p> <p>冊子 (P4～5) 動画 「社会保険と民間保険」(3:44～)</p> <p>ワークシート など ※人生すごろくの余白に書かせてもよい。</p>
まとめ(4分) [50分]	<ul style="list-style-type: none"> ● 損害保険で備えることは、万が一の時の助けになることを確認する。 ● 自分に必要な保険は何か、よく考えることが必要だと理解させる。 ● ワークシートなどに、本時で感じたことを記入し提出させる。 		

家庭科「家庭基礎、家庭総合」

教材を活用した授業プランのご紹介②

消費生活(経済生活とライフプラン)

授業プラン作成 海城中学高等学校 家庭科講師 川邊綾子 先生

目的

- 人生のさまざまなリスクに対して備えが大切であることを理解する。
- 社会保険ではすべてに対応できないこと、そのための「自助」の重要性に気づく。
- ライフプランニングも見据えながら、「自助」としての民間保険の活用について考察する。

プランのポイント

社会保障の「自助」・「公助」・「共助」における「自助」の重要性について、海外旅行をテーマに、自己実現に伴うさまざまなリスクに気づかせ、それに備える必要があることを学習させる。

学習の展開 ※学習の前提として、社会保障制度及び財政に関する学習を終えている状況での授業とする。

時間配当(各)[計]	学習内容と指導上のポイント		使用教材等
	学習内容	ポイント	
導入(10分) [10分]	<p>本時の主題 自分のライフプランニングを見据えた「自助」の在り方はどうするべきか</p> <p>発問① 人生のさまざまなリスクに“自分で備える”自助にはどのようなものがあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発問を受けて、「貯蓄」や「保険」の答えが出ると予想されるため、「貯蓄は三角、保険は四角」であることを説明し、冊子P2～5の内容を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「保険」の利点は、加入直後からリスクに備えることができること、目的に応じた保険があることを確認させる。 ▶ 社会保険(公的保険)はあくまでも人生の最低限のリスクをカバーするものであり、より人生を充実させるために民間保険を活用することの必要性に気づかせる。 	<p>冊子 (P2～5) パワーポイント 保険のキホン①「保険の役割」 保険のキホン②「社会保険と民間保険」</p>
展開(30分) [40分]	<p>発問② 海外旅行に行く場合、どのようなリスクが想定されるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自身で任意の国や地域、都市を設定し、発問に対する答え及びリスクによって生じる損害等を合わせて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ● グループでそれぞれの考えを発表し、内容を共有する。 ※国や地域で分類し、黒板等にまとめても良い。 ● 動画「友だちと海外旅行に行きたい！」を観て、海外旅行におけるリスクとそれに対する保険の役割を理解する。 ● 冊子P11のワークに取り組む。合わせてP28～29の資料で理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「海外旅行」を想像させながら、起こりうるリスクとそれによる損害を、具体的なイメージとともに考えさせるようにする。 ※自身で任意の国や地域、都市を設定させることで、気候や地域情勢等でリスクも変わることを理解させる。 ▶ グループ分けをする際には、異なる国や地域、都市を組み合わせることで、海外旅行のさまざまなリスクに気づかせる。 ▶ 海外旅行を一例に、自己の願望の実現にはそれに伴うリスクがあり、それに備えることの必要性和、さまざまなリスクに対応する保険の役割に気づかせる。 	<p>冊子 (P10)  パワーポイント 「友だちと海外旅行に行きたい！」</p> <p>動画 「友だちと海外旅行に行きたい！」</p> <p>冊子 (P11、28～29)</p>
まとめ(10分) [50分]	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時の主題に対する考えをまとめる。 ● 自己実現における民間保険、特に損害保険の意義を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 導入の内容も振り返り、民間保険でリスクに備えることの意味を理解させるようにする。 	<p>ワークシート など</p>

公民科「公共、政治・経済」

教材を活用した授業プランのご紹介①

社会保障

授業プラン作成 東京都立蒲田高等学校 主幹教諭(公民科) 浅川貴広 先生

リスク教育と損害保険教育の今

アンケート結果

生活上のリスクに対する備えや自助の観点などから、平成30年告示の学習指導要領解説では「公共」や「家庭」の授業で民間保険について触れることが示されています。また、2022年4月から成年年齢が18歳に引き下げられます。こうした状況を踏まえ、一般社団法人 日本損害保険協会では、「高等学校での『生活におけるリスク』および損害保険の教育に関する調査報告書」を作成いたしました。

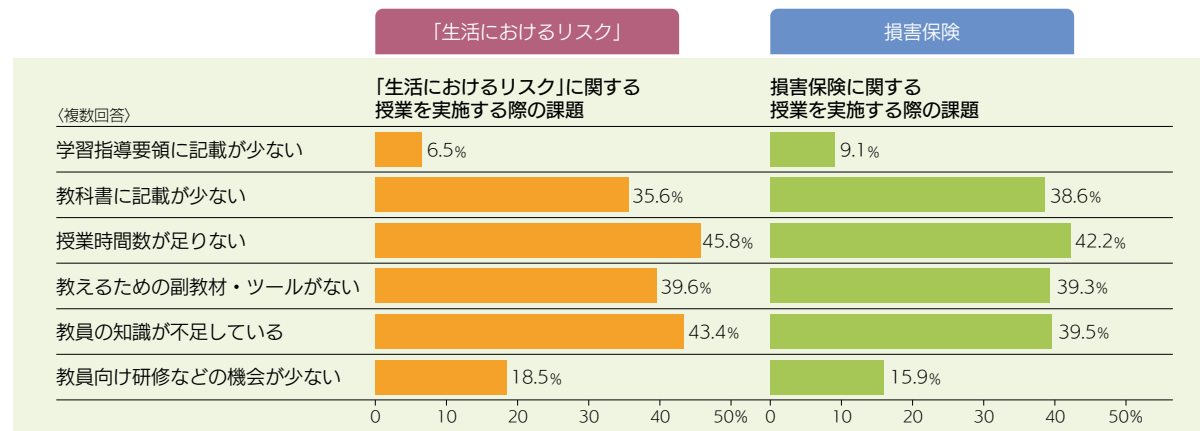
調査は2021年9月から10月にかけて、郵送やウェブ上で実施。全国の高等学校の公民科担当教員700人と家庭科担当教員936人から回答を得ることができました。調査では、多くの教員がリスク教育の必要性は感じているものの、実際には実施していないと回答。以下に、調査結果の一部をグラフで紹介していきます。

2 授業を実施する際の課題・どのような取り組みが必要か

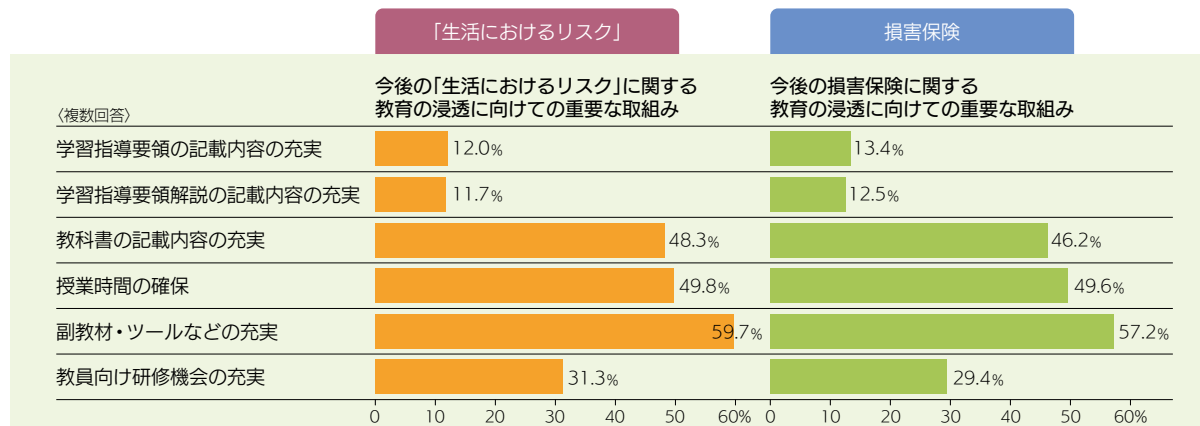
「生活におけるリスク」および損害保険に関する授業の実施において、いずれも「教えるための副教材・ツールがない」、「教科書に記載が少ない」、「授業時間数が足りない」、「教員の知識が不足している」ことが主な課題として挙げられている。また、今後の「生活におけるリスク」および損害保険に関する教育の浸透に向けて重要と考えられる取り組みでは、いずれも「副教材・ツールの充実」、「教科書の

記載内容の充実」、「授業時間の確保」の回答割合が高く、課題解決に向けた取り組みが重視されている。なお、損害保険に関する授業を実施する際の課題を教科別に見ていくと、家庭科では「教員の知識が不足している」が42.1%と最も高く、公民科では「教科書に記載が少ない」が46.6%と最も高いため、これらの課題解決にむけた取り組みが重要と考えられる。

■授業を実施する際の課題(全体/公民科・家庭科)



■どのような取り組みが必要か(全体/公民科・家庭科)

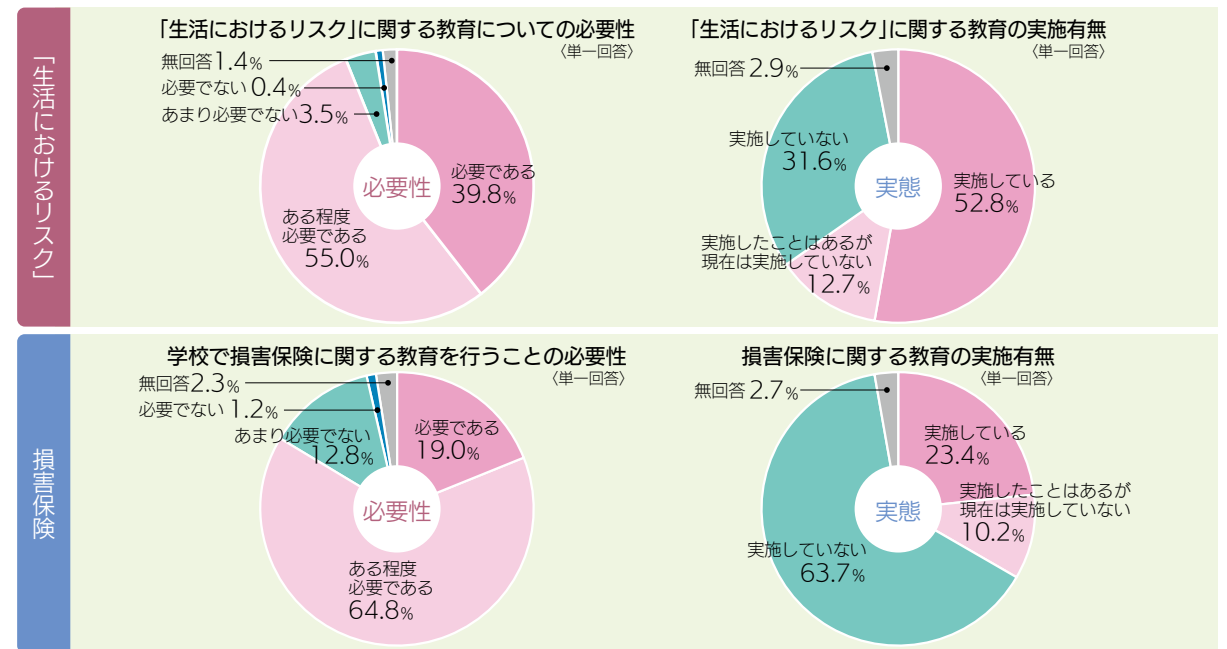


1 「リスク教育・損害保険教育」の必要性と授業実態

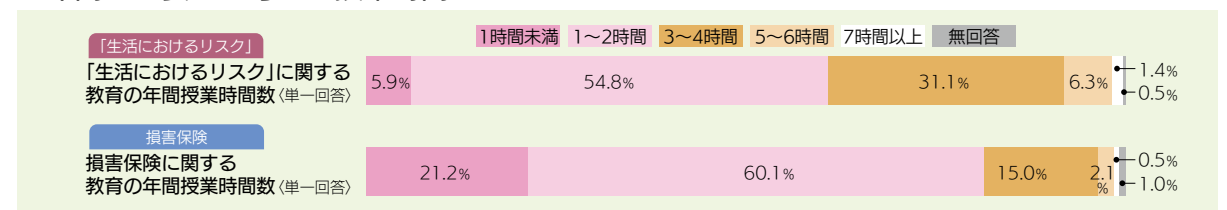
「生活におけるリスク」に関する教育を行うことが必要と回答した割合は全体で94.8%となっている一方、「生活におけるリスク」に関する教育を実施していると回答した割合は全体で52.8%となっている。また、損害保険に関する教育を行うこと

が必要と回答した割合は全体で83.8%となっている一方、損害保険に関する教育を実施していると回答した割合は全体で23.4%となっている。いずれも、教育が必要と回答した割合に対して、教育の実施割合が低くなっている。

■「リスク教育・損害保険教育」の必要性と授業実態(全体/公民科・家庭科)



■年間に必要だと考える授業時間(全体/公民科・家庭科)



詳しい調査結果はこちら

https://www.sonpo.or.jp/news/release/2021/21012_03.html



PDF ▶ 高等学校での「生活におけるリスク」および損害保険の教育に関する調査結果(概要)
PDF ▶ 高等学校での「生活におけるリスク」および損害保険の教育に関する調査報告書